

# 保育所実習における保護者支援の学びを可能にする 実習指導のあり方について：保育者と養成校教員 の意識の分析を通して

著者	増田 まゆみ, 小櫃 智子, 佐藤 恵, 石井 章仁, 高 辻 千恵, 爾 寛明, 尾崎 司, 倉掛 秀人, 若山 剛
雑誌名	東京家政大学研究紀要 1 人文社会科学
巻	55
ページ	39-47
発行年	2015-03
出版者	東京家政大学
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1653/00009341/">http://id.nii.ac.jp/1653/00009341/</a>

# 保育所実習における保護者支援の学びを可能にする 実習指導のあり方について ～保育者と養成校教員の意識の分析を通して～

増田 まゆみ\*・小櫃 智子\*\*・佐藤 恵\*\*\*・石井 章仁\*\*\*\*・高辻 千恵\*・  
爾 寛明\*\*\*\*\*・尾崎 司\*・倉掛 秀人\*\*\*\*\*・若山 剛\*\*\*\*\*  
(平成27年1月7日査読受理日)

The study on developing effective training methods  
for nursery students to learn parent-support in nursery school practice  
～ Based on the analysis of consciousness of nursery teachers  
and childcare training school teachers ～

MASUDA, Mayumi OBITSU, Tomoko SATO, Megumi ISHII, Akihito TKATSUJI, Chie  
SONO, Hiroaki OZAKI, Tsukasa KURAKAKE, Hideto WAKAYAMA, Tsuyoshi  
(Accepted for publication 7 January 2015)

キーワード：保育所実習，保護者支援，保育者，養成校教員

Key words：practice teaching, parent-support nursery teacher, childcare training school teacher

## I はじめに

### 1. 研究の背景

保育所保育を担う保育士に求められる専門性が多様化、高度化する状況の中で、保育士養成において、実習の充実は大きな課題となっている。

2002年児童福祉法改正により、「保育士とは、…(中略)専門的知識及び技術をもって、児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行うことを業とする者」とされている。これら2つの業務を専門的に担うことができるよう、保育士養成課程においては子どもの保育にかかわる科目とともに、現在、「家庭支援論」「保育相談支援」等、保護者支援に関する科目が用意されている。

2010年「保育士養成課程等の改正について(中間まとめ)」において、「実践力や応用力をもった保育士を養成するため、実習や実習指導の充実を図り、より効果的な保育実習にすることが必要である」としている。保育実習指導が1単位増え、保育所実習内容は、保育士の2つの業務(児童の保育、保護者に対する支援)を視野に入れたものには

なっている。しかし、2の先行研究で示すように、学生が学習可能な体験が用意され、指導がなされているかは、明らかではない。

そこで、まず、実際の保育所実習において、保護者支援についての学びがどの程度可能となっているのか、その実態や学生及び保育者の意識を捉えることが必要である。その上で、保育現場と養成校の協働体制の下、保護者支援の学びを可能とする実習指導のあり方を検討することが必要と考える。

### 2. 先行研究の動向

保育士養成課程における保育所実習の意義・効果や実習指導のあり方に関しては、すでに多くの先行研究がある。しかしながら、これらにおいて実習の内容として取り上げられているのは保育士の業務のうち「児童の保育」に関するものが大半であり、「保護者に対する支援」を対象を含めて調査や検討を行っているものは極めて少ないのが現状である。

小藪江<sup>1)</sup>は、質問紙調査により実習前後の学生の自己効力感を比較し、初めての保育所実習経験後には「保護者との関わり(父母と同視点での思考・親子関係実態読み取り・父母の相談にのる力量の3項目で測定)」に関する自己効力感は低下するが、その後施設・幼稚園実習を含めた4回目の実習の後には自己効力感が高まっていることを明らかにしている。

また小島<sup>2)</sup>は、学生が記述する「保育者になるために必

---

\* 児童学科  
\*\* 子ども支援学科  
\*\*\* 目白大学  
\*\*\*\* 千葉明德短期大学  
\*\*\*\*\* 桜美林大学  
\*\*\*\*\* せいがの森保育園  
\*\*\*\*\* 村山中藤保育園「櫻」

要な条件」のうち「保護者とのかわり」については、実習回数に関係なく「明るく挨拶する」「子どものことを伝える」といった内容が多いが、実習回数を重ねるなかで「相談にのる」「保護者の心を受けとめる」というような内容もみられるようになることを示している。

一方、田中他<sup>3)</sup>では、実習生を受け入れる保育所側を対象とした質問紙調査において、保育実習で学生が家族援助を体験することを「可能であると思う」と回答した保育所は65.9%に上るものの、個人情報保護などの点から実現には解決しなければならない課題や問題も存在すると述べている。さらに、保育実習において学生が家族援助の視点を持って保育に携わるための技術や知識を身につけるには、十分な時間と相当な臨床経験が必要であり、現在の養成校のカリキュラムではそれが困難であると推測されることを指摘している。

これらの先行研究から、保育所実習における保護者支援に関しては、1回の実習だけではなく複数の実習経験を重ねるなかで学生の成長を捉えていく必要があること、保育所・養成校双方が個人情報保護やカリキュラムなど現実的な面での制約を抱えており、相互の理解や協働が必要であることが示唆されている。しかし、実際に保育所および養成校で実習における保護者支援をどのように指導するのか、また両者の協働体制をどのように構築・展開させていくのかといった実践面に踏み込んだ研究は未だなされておらず、これらについては今後の課題と言える。

## II 研究の目的及び方法

本研究は、量的調査により保育所実習における保育現場の保護者支援の指導の実態及び保育者の意識について明らかにすることを目的とする。また、その実態と意識を踏まえて、併せて質的調査を実施することにより保育所実習における保護者支援の指導の具体的なあり方について考察する。

### 1. 量的調査：質問紙法

保育所実習における保護者支援の指導の実態及び保育者の意識について明らかにするために、質問紙法による調査を以下の通り実施した。

【調査期間】2012年11月～12月中旬

【調査内容】実習における保護者支援の学びとその指導の実態・意識について

【調査対象】実習指導の責任者（園長、副園長、主任保育士等）

【配布と回収】東京・埼玉・千葉・神奈川の私立・公立保育所の303園に依頼し、郵送による配布、回収を行った。質問紙の回収数は226（公立53.9%、私立46.0%）回収率は74.6%であった。回答者は、園長59.29%、主任21.2%、

副園長16.4%、その他3.1%であった。また、地域子育て支援事業を行っている園は31.9%であった。

### 2. 質的調査：グループインタビュー法

保育所実習における保護者支援の指導のあり方を考察するため、グループインタビュー法による調査を実施した。グループインタビューは、グループダイナミクスを活用しながら質的情報を把握する科学的な方法論の1つであり、参加者同士の相乗効果によってより広範なデータが得られる。また対象者の反応をリアルに観察できるため発言のニュアンスや表情などから多くの気づきを得ることができることから、実習指導のあり方を考察していく上で有効な方法と判断した。

グループインタビュー調査は、保育現場の指導状況及び指導に対する考えを明らかにするために保育現場の実習指導責任者（園長、副園長、主任保育士）のみを対象とした調査1と、保育現場と養成校の協働体制による指導のあり方を考察するために保育現場の実習指導責任者及び保育者養成校の実習指導教員の両者を対象とした調査2を実施した。

保育現場の実習指導責任者は、調査1、調査2とも同一の人物を対象とし、調査1と調査2の期間を1週間空けて実施した。調査1においてグループインタビューメンバー間で対話した内容を熟考する期間を経て調査2を実施することで、調査2でのグループインタビューの内容が深まることを期待した。

実施にあたっては、インタビューの目的と調査項目及びその方法について、事前に文章で明示し、共通認識のもとにインタビューに臨む態勢に配慮した。調査はインタビュアー1名と観察者2名により実施し、調査1、調査2とも同一の人物が担当した。インタビュアーは、常に親和的態度で、インタビュイーに目的、方法を再確認し、自然な雰囲気の中で進め、研究目的からはずれないような道案内役と、非言語的な動きを察知すること等配慮した。さらに、2名の観察者がインタビュイーの表情、身振り等を観察し記録にとどめ、インタビュー内容を解釈する際の補助的資料とした。調査の状況は以下の通りである。

【調査日時】

調査1 2012年12月8日（土）17:00～19:00

調査2 2012年12月16日（日）12:00～15:00

【調査対象】

調査1 保育現場の実習指導責任者5名（私4、公1）

調査2 保育現場の実習指導責任者5名（私4、公1）

保育者養成校実習指導担当者2名（短1、大1）

【調査内容】

〈調査1〉

①保護者支援に関して大切にしていること

- ②実習生が保護者支援について学ぶために、園で大切にしていることや実際に行っていること
- ③保護者支援について実習生が学んでいること
- ④保育士の役割を考えたときに、改めて実習において必要となる保護者支援の学び

〈調査2〉

- ①保護者支援について学んでほしいこと
- ②その学びを可能にする実習指導のあり方
- ③保育現場と養成校の協働のあり方

### 3. 倫理上の配慮

質問紙調査で得られたデータは、適切な統計処理を行い、個人が特定されることがないように配慮した。インタ

ビュー調査において収集されたデータは個人情報の厳重な管理と適切な処理を行い、研究以外の目的には使用しないという説明をし、理解を得た。さらに、録音内容に基づく研究結果を学会等で発表することの許可を得た。

## Ⅲ 結果及び考察

### 1. アンケート調査

実習場面において、「実習生に経験させたい保護者支援に関する事項」、「実習生が実際に経験していると思われる保護者支援に関する事項」、「実習前に養成校で学習してほしい保護者支援・地域子育て支援の内容」について「大変そう思う」「そう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」の4件法で回答を得た。また、「保護者支援や地域

表1 実習生に経験させたいこと

項目	保育実習Ⅰ (%)				保育実習Ⅱ (%)			
	大変そう思う	そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	大変そう思う	そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
送迎時・観察	19.47	54.42	19.91	4.87	44.25	42.92	8.85	1.77
送迎時・説明	17.26	57.52	19.91	3.98	39.38	46.90	9.73	1.77
保育参観・観察	10.62	42.04	36.28	8.85	19.91	49.56	23.01	4.42
保育参観・説明	11.50	46.02	31.42	7.52	21.68	51.33	19.03	3.98
延長保育・観察	17.26	54.87	23.01	3.10	38.94	48.23	9.29	1.33
延長保育・説明	15.93	55.75	20.80	4.42	34.07	50.00	11.06	1.77
保護者の交流・観察	3.54	18.58	51.33	24.78	7.96	25.66	45.58	18.58
保護者の交流・説明	5.75	23.89	46.02	22.12	9.29	33.63	37.61	17.26
相談・観察	8.41	21.24	47.35	21.24	15.49	31.86	33.19	16.81
相談・説明	11.95	42.04	31.42	13.27	23.45	46.90	19.03	8.85
連絡帳を見る	17.70	54.87	18.14	7.08	32.30	46.90	12.39	5.31
連絡帳の説明	21.68	58.41	13.27	4.42	38.05	47.79	9.73	2.65
懇談会等・観察	2.65	13.27	49.56	32.30	5.31	21.68	44.25	25.22
懇談会等・説明	7.08	34.51	38.94	15.93	13.72	46.90	25.22	11.50
園庭解放・観察	8.85	44.25	30.53	9.29	15.93	50.00	20.80	6.19
園庭解放・説明	12.39	49.56	22.57	8.41	21.24	53.54	11.95	6.64
講座・観察	4.42	30.53	36.28	18.14	7.96	36.28	29.65	13.27
講座・説明	7.96	35.84	31.42	14.60	10.62	43.81	22.57	11.06
子育て支援・参加	6.64	26.11	38.50	17.26	12.39	31.42	31.86	10.62
子育て支援・説明	11.95	36.73	31.86	9.73	18.58	42.04	22.12	5.31
一時預かり見学・観察	7.08	38.50	29.65	13.27	14.16	50.44	16.37	6.64
一時預かり・説明	11.50	45.13	24.34	8.85	19.91	53.10	10.18	5.31
休日保育見学・観察	3.98	17.70	33.19	21.68	5.75	27.88	26.55	15.93
休日保育・説明	7.08	26.55	26.99	17.26	8.85	36.73	17.70	12.83
夜間保育見学・観察	4.87	14.60	33.63	22.57	5.75	26.11	26.55	16.81
夜間保育・説明	6.19	26.55	26.55	16.37	8.41	36.73	16.81	12.83
病児病後児保育見学・観察	3.98	16.81	35.84	20.35	5.75	27.88	26.11	15.49
病児病後児保育・説明	6.64	26.11	29.20	12.83	11.50	33.63	19.03	10.18

50%超え

80%超え

表2 実習生が経験していること

項目	保育実習Ⅰ (%)				保育実習Ⅱ (%)			
	大変そう思う	そう思う	あまり そう 思わない	そう 思わない	大変そう思う	そう思う	あまり そう 思わない	そう 思わない
送迎時・観察	9.73	42.92	33.63	9.73	16.81	46.90	27.43	4.87
送迎時・説明	8.85	39.82	32.30	12.83	16.37	42.48	29.65	6.19
保育参観・観察	2.65	26.99	33.19	30.53	6.64	27.88	31.42	26.11
保育参観・説明	3.10	28.32	34.96	25.66	6.19	33.19	30.53	21.24
延長保育・観察	7.96	44.25	32.30	12.39	15.93	50.44	21.24	8.41
延長保育・説明	7.96	45.13	31.42	11.06	15.04	47.79	26.11	6.19
保護者の交流・観察	1.77	9.29	39.82	45.13	1.33	13.27	38.05	41.59
保護者の交流・説明	2.21	14.16	37.17	42.04	2.21	19.03	34.51	38.50
相談・観察	2.21	11.50	40.71	42.04	2.65	21.24	32.30	38.94
相談・説明	3.98	22.12	33.19	36.28	6.19	30.53	25.22	31.86
連絡帳を見る	7.96	45.13	26.99	16.81	12.83	46.90	23.89	11.95
連絡帳の説明	9.73	42.48	28.32	15.49	15.93	45.58	22.57	10.62
懇談会等・観察	1.33	5.31	30.53	58.85	0.88	7.96	30.53	55.31
懇談会等・説明	3.10	15.93	30.53	45.58	3.98	20.35	30.09	39.38
園庭解放・観察	1.77	23.89	23.89	25.22	3.54	27.43	22.57	21.24
園庭解放・説明	3.54	25.66	23.89	21.24	6.19	29.20	22.12	16.81
講座・観察	1.33	11.50	16.37	15.93	2.65	13.27	14.16	15.04
講座・説明	2.65	12.83	15.04	13.72	3.54	16.37	12.39	11.95
子育て支援・参加	1.77	8.41	17.70	18.58	2.65	11.06	15.93	17.26
子育て支援・説明	3.98	12.83	15.93	13.72	5.31	17.70	12.39	11.95
一時預かり見学・観察	2.21	19.03	13.27	17.70	5.75	19.47	12.39	15.04
一時預かり・説明	3.98	24.34	11.95	11.95	8.41	25.22	9.29	9.29
休日保育見学・観察	0.44	2.21	6.64	15.93	0.88	1.77	6.19	15.93
休日保育・説明	1.33	3.54	5.31	14.16	1.77	3.98	4.87	12.83
夜間保育見学・観察	0.88	2.21	4.42	13.72	1.33	2.21	3.98	13.27
夜間保育・説明	0.88	3.10	3.98	12.39	1.33	3.98	3.54	11.06
病児病後児保育見学・観察	0.44	1.33	5.75	14.60	0.88	1.77	4.42	14.60
病児病後児保育・説明	0.88	2.21	5.75	12.83	1.33	3.54	4.42	12.39

50%超え

表3 実習前に養成校で学習してほしい保護者支援・地域子育て支援の内容 (%)

項目	大変そう思う	そう思う	あまり そう 思わない	そう 思わない
保護者の状況および保護者や子育てを取り巻く社会状況	51.33	42.04	3.98	0.00
相談援助の知識・技術	31.86	46.90	16.81	0.88
指針第6章（保護者支援）の内容	43.36	46.46	7.08	0.44
児童虐待	34.51	56.19	6.64	0.00
地域の機関や団体との連携・専門機関との連携	18.14	57.96	19.47	0.88
子育て支援に関する制度	19.03	60.18	15.04	0.88
その他	4.42	2.21	0.44	0.00

網掛け70%超え

80%超え

子育て支援を学ぶために学生にどのような実習体験が必要か」について自由記述での回答を得た。

### 1) 経験させたいこと、経験していること

「実習生に経験させたい保護者支援に関する事項」、「実習生が実際に経験していると思われる保護者支援に関する事項」について「大変そう思う」「そう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」の回答の割合を表1・2に示した。また、特に「大変そう思う」「そう思う」の回答が50%、80%を超える項目について、網掛けで表記した。

表1にある通り、実習生に実習中に保護者支援に関して経験させたいと考えている事項では「保育参観・参加の場面でのかかわりの観察／かかわりの意義や内容についての説明」や「保護者の相談に応じる意義や内容についての説明」など保育実習Ⅰ・Ⅱの両方で「大変そう思う」「そう思う」の回答の割合が50%を超えていた。「大変そう思う」「そう思う」の回答の割合が80%を超えている項目は保育実習Ⅱに多く見られた。「送迎時の場面での保育士とのかかわりの観察／かかわりの意義や内容についての説明」、「延長保育の場面の保護者と保育士とのかかわりの観察／延長保育の意義や内容についての説明」などの項目で回答の割合が80%を超えていた。一方、保育実習Ⅱのみ割合が高かった項目もあり、「保護者の相談に応じることの意義や内容についての説明」や「保護者会、個人面談等の意義や内容についての説明」などが含まれていた。これらの項目には、日常保育そのものではなく、保護者からの個別の相談や保護者支援行事等の意義とその実態の説明であることが明らかとなった。

表2にある通り、実習中に保護者支援に関して実際に経験していると認識されている事項では「送迎時の場面での保育士とのかかわりの観察」など保育実習Ⅰ・Ⅱの両方で「大変そう思う」「そう思う」と回答する割合が50%を超えていた（網掛けで表記）。回答の割合が80%を超える項目はなかった。保育実習Ⅱのみ割合の高かった項目は「送迎の場面でのかかわりの意義や内容についての説明」だけであった。全体を通して保育実習Ⅰと保育実習Ⅱの回答の割合を比較すると、保育実習Ⅱにおいて「大変そう思う」「そう思う」の回答の割合が増えている。保育実習Ⅰよりも保育実習Ⅱの方で保護者支援に関して経験もさせたいし、経験していると保育者は認識している。

また、実習における保護者支援の学びについては、現状では各園が実施できている事項が「送迎」や「延長保育」、「連絡帳」などに限られており、経験させたいことと実際に経験していることに違いがあることが明らかとなった。

### 2) 事前の学習に求められること

実習前に養成校で学習してほしい保護者支援・地域子育て

支援の内容は、表3の通りであった（複数回答）。

実習前に養成校で学習してほしい事項としてはどれも回答の割合が高かったが、「大変そう思う」「そう思う」の回答が80%を超えた項目は「保護者の状況および保護者や子育てを取り巻く社会状況」、「指針第6章（保護者支援）の内容」、「児童虐待」の3項目であった。また、「相談援助の知識・技術」、「地域の機関や団体との連携」、「子育て支援に関する制度」の3項目は70%台であった。

### 3) 保護者支援を学ぶために必要な実習体験

保護者支援を学ぶために必要な実習体験について自由記述を求めたところ、回答数は136件（60.2%、n=226）であった。これらの自由記述を①保護者支援の経験・学びが難しいと思われる要因、②保育の中で具体的に実施可能なこと、③実習以外での経験（他の機関で経験した方がよい）、④養成校側が担うべき課題・学習内容などの4つに分類し整理した。（表4～7、表中の数値は類似の回答の件数）

「実習中の経験・学びが難しいと思われる要因」には、実習期間の短さの問題や個人情報の保護の問題などが挙げられた。また、「……子どものことで精一杯」など学生自身の問題が挙げられた。一方、保育士自身の問題として、「私達も勉強中で、どう実習生に伝えていく事ができるのかまだまだ模索中」などの記述もあった。保護者支援に関して実習生に経験させたいことの質問では、多くの項目で学びが必要であると認識しながらも、自由記述では実際の指導が難しいといった記述がみられている。（表4）

表4 実習中の経験・学びが難しいと思われる要因

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• 実習期間だけでは、学ぶだけの時間や日程等の余裕がない(10)</li> <li>• 保育士も学習中であり、実習生への指導等を模索している状況である</li> <li>• 個人情報保護・プライバシー保護の観点 (9)</li> <li>• 保護者への配慮 (4)：あまりいい気持ちがないのでは／信頼関係が大切</li> <li>• 学生の意識や許容量 (13)；子どものことで精一杯／人としてどうあるか／コミュニケーション／ポイントを絞るべき</li> </ul> |
|--|

「保育の中で具体的に実施可能なこと」については、送迎時や延長保育、園庭開放などの機会を活用して「見学や部分参加等を通し状況を知る」ことや、取り組みについての説明を聞く中で「保護者のニーズにどのように対応しているのかを学んでほしい」という保育士の願いが記述されている。また、「子どもから見える生活や家庭の様子を意識する」という意見もあり、何か特別なことをするのではなく日常の保育の中で学べる機会があることが示されている。一方で、併設の子育て支援センターや一時保育、園庭開放等の地域子育て支援の取り組みへの参加についても実

施可能なこととして挙げられている。(表5)

表5 保育の中で具体的に実施可能なこと

○ <b>保護者と保育士とのかかわりを観察する／話を聞く</b> ; 送迎時の保育士と保護者の関わりの観察や意図を聞く等 (7) / 延長保育の際に送迎の観察 / (4) 事業や取組についての説明を聞く (13)
○ <b>取組に参加する</b> ; 併設された子育て支援センターや一時保育、育児講座、園庭開放等への参加 (13) / 連絡帳やお便りから学ぶ・同じ様式で書く体験等 (6)
○ <b>子どもとのかかわりから学ぶ</b> ; 3歳未満児の発達の理解 (1) / 子どもから見える生活や家庭の様子を意識する (5)

また、実習期間外に「他の機関でも経験したほうが良い」こととして子育て支援センター等での見学や体験が必要だとする意見もあった。(表6)

表6 他の機関でも経験した方が良いなど

○ <b>実習以外で経験すべきこと</b>
A 子育て支援センターや関係機関の見学 (11) 子育て支援センター・児童館・公民館・児童相談所・保健センター他
B 子育て支援センター等での体験 (21) ボランティア等を行うべき / 実際に保護者と話すべき / 広場を活用し親と話す / 行事に参加する等
C 子育て支援センターや関係機関での実習 (10) *上記の経験を、実習期間内に行う / 実習期間を延長して行う / 保育実習Ⅱの後に新たに実習をする。 / また、実習以外の機会に体験すべきという4つの違いがあった。

さらに、「養成校側が担うべき課題・学習内容」として、保護者支援に関する基本的な内容、子どもの発達や保育所保育指針の理解に加えて、提出物の管理や挨拶といった実習内容というよりも実習生、社会人としての基本的な心構えやマナー、コミュニケーション能力の育成といった記述が多く挙げられている。(表7)

表7 養成校側が担うべき課題・学習内容など

○ 養成校で学ぶべきこと (事前学習・学習全般)
A: 保護者支援に関する事項: 子育て支援とはどういうものか、保護者と手を携える大切さ等 (7)・子どもや子育てを取り巻く社会情勢について等 (6)
B: 子どもの発達理解・保育指針 (15)
C: 基本的な事項 (提出物・挨拶・常識) やコミュニケーション (人とかかわる経験・会話・質問・ニーズに対応する力) 等 (35)

## 2. インタビュー調査

### 1) 調査1: 保育現場インタビュー

保育現場実習指導責任者によるグループインタビューで

は、実習における保護者支援の指導については子育て支援センターでの実習を積極的に取り入れている園もある中、多くの園でこれまで十分になされてこなかったことが確認された。

その背景の1つには、発話記録1に見られるように、実習での学びが子どもの保育に偏りがちであったことと、そのことへの反省が語られた。しかし、これは保育士側だけの意識の問題ではなく、発話記録2にあるように、学生側の学びの志向にも偏りがあることが述べられた。保育士と実習生ともに実習体験とその指導が子どもの保育に偏ってしまう傾向が改めて認識されたといえる。

インタビューを進めていく中で、実習生自身の学ぼうとする姿勢が改めて確認された。実習生が日常の子どもとのかかわりを通して、子ども理解を深めていく過程で、子どもの背景にある保護者の状況を理解したり、保育士の保護者支援(送迎時の対応、連絡帳)の実際について学ぶ機会は多くあり、保育士が意識してそのことを説明することで保護者支援の学びが可能になることが見出された。(発話記録3)

#### 〈発話記録1〉実習指導の偏りへの反省

A 保育士: 「反省する部分がとてもありまして……指導が率直に偏っていたかなって改めて考えさせられました。やはり保育士としての子どもとのかかわりにずいぶん重きをおいてしまって…」

B 保育士: 「ほんとうに先生と同じで、反省がいっぱいで、いったい何をしていたかなって……」

#### 〈発話記録2〉学生自身の学びの偏

B 保育士: 「……どうしても保育の実践とか、子どもとのかかわりとかに学生さんは目が向きがちだし。で、そこに私たちも“そうよね、って……」

#### 〈発話記録3〉

##### 〈日常保育における保護者支援の気づきと学び〉

A 保育士: 「……きっかけをつくるのは現場の保育士が、こういうところははどうだろうって声をかけてあげるだけで、実習生って一生懸命学ぼうっていう姿勢はあると思いますので。そういう場面では私自身も今回反省しました。やっぱりそういう学生さんが考える機会っていう部分では説明不足だったかな……」

D 保育士: 「……やっぱり現場で、実際の子どもの変化とか、なんでこの子がこういう状況になってしまったんだろうっていうようなことに学生さんが気づくと、その背景を私たちがお話ししたりして。“だからそうなのか、だからお母さんもこういうふうになっちゃうんだ” っていう、そういうことを学生さんとのコミュニケーションの中で、会話をするって大事なことなんだって。普段私たちも、あまり実習生だからって構えないで、実習生が感じたことにそのまま私たちがしていることを素直に伝えていくこと

で、実習生ってちゃんと着実に学んでいってくれるんだなって。……」

また、ひろばや育児講座等、地域の子育て支援の実施日に実習日程が必ずしも合わないことも課題として挙げられたが、実習時期の柔軟な対応により子育て支援への参加も可能になることが明らかとなった。それには当然、保育現場と養成校との協働による実習指導体制の構築が条件となることが示唆された。（発話記録4）

〈発話記録4〉地域子育て支援の体験と課題

A 保育士：「意識すれば、園のこの施設の中で抱えていないで、“今日は在宅支援のお子さんきてるからいってましょ”とかって。私の園の場合には、そんなことをもっともって工夫できるなって思いましたね。……そういうのに上手くほんとは学校側さんと日程調整できるのであれば。……」

C 保育士：「地域支援をやっている日に合わせられる、行事にあわせられるっていう……学校側が日程を動かせる余裕があるとそういうチャンスをつくれるんだろうと思います。」

2) 調査2：保育現場・養成校インタビュー

保育現場実習指導責任者と保育士養成校実習指導教員によるグループインタビューでは、まず保育現場から、調査1でのグループインタビューに参加した際の対話内容を踏まえて、まずは子どもを理解することから始めること、そのことが保護者支援を理解する上でも大切であることが語られた。（発話記録5）

さらに、子どもの保育と保護者支援はそもそも切り離して考えることができないものであり、保育現場では子どもの保育と保護者支援を一体として日々実践していることに改めて気づいている。保護者支援に関する実習指導においては日々の保育実践に視点を当てていくことの必要性が強く認識された。（発話記録6）

〈発話記録5〉子どもの保育を学ぶ重要性

C 保育士：「……まずは子どもを知らずして保護者支援はないのかなと思います。ですから、子どもの姿・成長をこの子はどういう子なんだろうかということをまず知って、その上で保護者にどういうふうにかかわるかということが前提……」

D 保育士：「……（保護者）支援の前には子どもをよく知らなければいけない、子どもの発達過程もしっかりわかっていないとなかなかできないものなので……」

〈発話記録6〉子どもの保育と保護者支援

U 保育士：「……親と子は切り離せない。親を見るときに子どもを見るし、子どもを見るときに、その後ろに親がいるという背景や環境やいろんなことがあって……」

B 保育士：「……子どもの支援があり、その先に親の支援

がありっていうところにつながっていく……、私たちがもっともって意識して学生の実習担当として話していかなければいけないと気づきました。」

また、その上で子ども同様、保護者も一人ひとり違いがあることに気づいたり、保護者の子育ての大変さや努力に共感したり、保護者と誠実に向き合うことの大切さを感じ取り学ぶことが大事であると語られた。（発話記録7）

〈発話記録7〉保護者への共感と誠実な姿勢

A 保育士：「子どもと同じように保護者も一人ひとりみんな違う……、そういう違いを感じ取ってほしい……。それに対する保育者の対応を変えていくことが大切なことと、保護者ががんばっているところに信頼というか、信じる気持ちからスタートしてほしいということがありません。」

C 保育士：「……焦らず、肩肘張らずに受け止める。……何をやってあげるのかというよりは誠実に向き合うことを一番学んでもらいたい……」

養成校からは、実習指導の中で保護者支援を現場でどのように学んでくればよいかという指導が十分でなかったことの反省がまずは語られた。（発話記録8）その上で、保育現場からの発話を受けて、保護者の難しい相談に対応することだけが保護者支援でなく、送迎時や連絡帳、掲示物を通しての保護者とのやりとりなど日常行われている保護者支援に目を向けることの大切さやさまざまな支援の形を知ることの重要性が語られ、保育現場と思いが共有された。（発話記録9）

〈発話記録8〉養成校での指導の偏りへの反省

養成校教員 a：「……いろいろな科目で押さえておいてほしいところは指導の中で伝えているのですが、今、考えてみますと本学の場合はこれだけ保護者支援ということの重要性が言われている中で、実習指導、事前指導の中でそこを特化したことはしてなかったなと今反省をしまして……」

〈発話記録9〉日常保育を通して学ぶ保護者支援

保育士 B：「……学校の中でやったものはとてもレアなケース……（学生も保護者支援は）難しいと感じていたと言っていた……授業というのは幅広く……現場に出たときに困らないようなことも含めて難しいこともする……（でも）保育園では結局日常的なかかわりが中心……難しいと考えるよりもっと日常的に私たちが保護者に対して何をして、どういうふうなかかわりをしているのか……」

養成校教員 b：「……現場で保護者支援というのが、何か困ったこと、……問題があって相談に来られること、そういった相談を受けること以外にもいろんな支援を園がされている……園でどのようにやっているのかというのをご家庭に知らせていくということもすごく大事な柱……お迎えのときだったり、保護者会だったりとかいろんなところで



先生たち関わりを持たれてコミュニケーションされている……、そういったのも実習生に、これも支援につながるというお話があると、そこで学生が学んでくれるといいな。……」

こうした保育現場と養成校とのやりとりの中で、養成校が実習中に保育現場に向く巡回指導や、養成校で行われる実習事後指導への保育現場の参加を通して、協働して実習指導にかかわっていくことの可能性が確認された。(発話記録 10) また、現行の一定期間継続して行われる実習日程にとらわれず柔軟な実習のあり方を保育現場と養成校が協働して検討していくことで、保護者支援の学びを現在よりも体験できる可能性が示唆された。(発話記録 11)

〈発話記録 10〉保育現場と養成校の協働体制

B 保育士：「……巡回のときにちょっとコミュニケーションですよね、……私はその時間を大事にして……唯一の連携の場となるので、その時間を大切に考えています。」

U 保育士：「大学によっては実習が終ると実習を受けた園の先生たちが集まって、振り返りをしてくださる大学もある……実習した学生が発表するんですけど、……私たちも呼ばれてその発表も聞けたら聞き、その後に振り返りをするなんていう……私は前向きでいいなという印象……」

〈発話記録 11〉柔軟な日程調整の必要性

C 保育士：「……(日程に)幅を持つことで、園の中も行事であるとかプログラムの中で学生によりよい日程にさせてあげることができる。……そこを養成校の先生たちがどんな風に考えてくださるのかなと思います。」

#### IV おわりに

本研究での量的調査である保育所実習指導の責任者(園長・副園長・主任)へのアンケート調査では、実習における保護者支援の学びについて、多くの項目で経験させたいと思っている一方、実際に経験していると意識している事項は、「送迎時の観察」や「延長保育の観察・説明」、「連絡帳」などに限られており、両者に違いのあることが明らかとなった。自由記述では実際の指導が難しい要因として、「実習期間の短さ」、「個人情報の保護の問題」、また、「子どものことで精一杯な学生」、さらに、保育士自身の問題として「私達も勉強中で、どう実習生に伝えていく事ができるのかまだまだ模索中」などが挙げられた。

また、質的調査である保育所実習指導責任者へのグループインタビューでは、これまでは、保護者支援について実習指導として十分になされてこなかった背景が提示された。

実習指導の内容が子どもの保育に偏りがちであったことを保育者自身の反省として語るとともに、学生側の学びの志向も子どもの保育に偏っていることが述べられた。しかし、インタビューで相互に対話を重ねる中で保育者は、実

習生が日々、子ども理解を深めていく過程で、子どもの背景にある保護者の状況に関心を寄せる姿に気づくのである。この気づきは、保護者支援の実際について日常保育の中で説明する機会が存在し、保護者支援に関する実習指導の可能性を認識することに繋がる。さらに、実習時期の柔軟な対応等により、多様な子育て支援への参加も可能になることも明らかとなった。

保育現場実習指導責任者と保育士養成校実習指導教員によるグループインタビューでは、保育現場から、1回目の対話内容を踏まえて、子どもの保育と保護者支援を一体として日々実践していることに改めて気づいている。子ども同様、保護者も一人ひとり違いがあること、保護者の子育ての大変さや努力に共感し、保護者と誠実に向き合うことの大切さを、実習生が理解できるよう語ることで、保育者自身の実践の可視化・認識の明確化へ繋がっていると推察される。

養成校教員からは、まず、保護者支援への事前指導が不十分であったことの反省が語られた。その上で、保護者支援に関する養成校での学びは、保護者の難しい相談への対応だけでなく、日常行われている保護者支援に目を向け、多様な支援の実態を知ることの重要さが語られ、保育現場と思いが共有されていた。

その結果、養成校教員の巡回指導や、養成校で行われる実習事前・事後指導への保育現場関係者の参加等、協働して実習指導に関わっていくことの可能性が確認された。また、現行の一定期間継続して行われる実習日程にとらわれず柔軟な実習のあり方を保育現場と養成校が協働して検討していくことで、保護者支援の学びを多面的に体験し、学ぶ可能性も示唆された。

「はじめに」で述べた「実践力や応用力をもった保育士を養成する」ためには、保護者支援の保育現場指導をその困難性を乗り越え、保育現場と養成校との協働による実習指導体制の構築が必要である。実習の体験・学びの主体である学生の実態理解に基づき、現場保育者と養成校教員が事前指導、現場実習、事後指導へ連続性をもって取り組むことにより、実習生の学びを充実させることが可能になると考えられる。学生の学びの志向は、保育士養成校での学びや実習指導のあり方が大きく影響する。実習の場で、学び、成長し続ける保育士と出会う意味は大きい。

今後、保育現場と養成校とが協働していくために、具体的な実習指導のあり方を共有する場、換言すれば実習指導者の研修の場を確保し、その内容・方法について検討することも求められる。その際重要なのは、保育士養成に必須の実習指導を担うことは、保育士自身の専門性の向上や保育現場での人材育成に繋がるという観点である。継続して研究に取り組んでいきたい。

## 引用文献

- 1) 小藺江幸子 保育実習が学生の自己効力感に与える影響：実習回数の違いによる自己効力感の特徴 淑徳短期大学研究紀要 **53**, 97-112 (2014)
- 2) 小島千恵子 実践力を身につけるための実習プログラムの構築：学生の実習後の「保育者の資質と力量」についての振り返りの記述から 名古屋柳城短期大学研究紀要 **35**, 173-181 (2013)
- 3) 田中利則・米山岳廣・阿部和子・大久保秀子・長島和代 保育所における家族援助の実態に関する研究 湘北紀要 (**30**), 21-38 (2009)

## 参考文献

- 1) 全国保育士養成協議会「指定保育士養成施設職員の実態に関する調査報告書Ⅱ」保育士養成資料集第56号 (2012)
- 2) 石井章仁他「保育現場と養成校との協働による保育所実習のあり方Ⅴ」第66回日本保育学会論文集 (2013)
- 3) 増田まゆみ他「保育現場と養成校との協働による保育所実習のあり方Ⅵ」第66回日本保育学会論文集 (2013)
- 4) 小櫃智子他「保育現場と養成校との協働による保育所実習のあり方Ⅶ」第67回日本保育学会論文集 (2014)

## Abstract

A questionnaire survey and an interview survey were conducted in order to investigate how nursery school teachers recognize parent-support practice for nursery students and what training is actually provided at the nursery schools themselves. The purpose of this study is to explore effective training methods for parent-support practice based on the survey results.

The results of the questionnaire survey indicate that nursery school teachers consider that nursery students ought to learn from parent-support practice. However, the training actually provided is limited to observation of pick-up and drop-off, observation and explanation of extended day care, and writing contact notebooks. There is a gap between what nursery school teachers want to teach and what they actually provide.

The results of the interview survey indicate that nursery school teachers only partially understand parent-support practice and furthermore that the training of parent-support practice in daily childcare is important.